

平成30年度秋季企画展

わずか

大和川のつけかえ

8か月の

大工事

なぜ、巨大な川を
8か月で造ることができたのか…

柏原市立歴史資料館

柏原市高井田 1598-1 電話：072-976-3430

JR 大和路線 高井田駅 から徒歩約 5 分

近鉄大阪線 河内国分駅 から徒歩約 15 分

9:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

月曜休館 / 入館無料 (祝日は開館)

史跡

高井田横穴特別公開

10月20日(土)

10時~15時

参加費無料・申込不要

職員によるツアーガイド

10時・11時・13時・14時

※定員各回25名

館長と学ぶ

大和川講座

講師：安村俊史

(柏原市立歴史資料館館長)

13時30分~/当館3階研修室

定員70名

参加費無料・申込不要

当日13時より受付

9月29日(土)

『大和川の付け替え工事 一設計編一』

10月27日(土)

『わずか8か月の大工事』

11月24日(土)

『発掘成果からみた付け替え工事』

12月22日(土)

『なぜ大和川は付け替えられたのか』

2018

9/11火▶

12/9日

洪水をくりかえす大和川は、宝永元年（1704）につけかえられました。2月にはじまった工事は、その年の10月に終わっています。巨大な川をつくる工事が、わずか8か月で完成しているのです。どうしてそんなに早く完成できたのでしょうか。その理由について、考えてみたいと思います。

大和川のつけかえ運動

つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流れ、大阪城の北でもとの淀川（大川）に流れこんでいました。つけかえ前の大和川はなんども洪水をおこしていたため、洪水に苦しむ人たちが、大和川をつけかえてほしいという運動をはじめました。幕府（国）は、つけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつもつけかえは必要ないということになりました。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したことも理由の一つです。そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

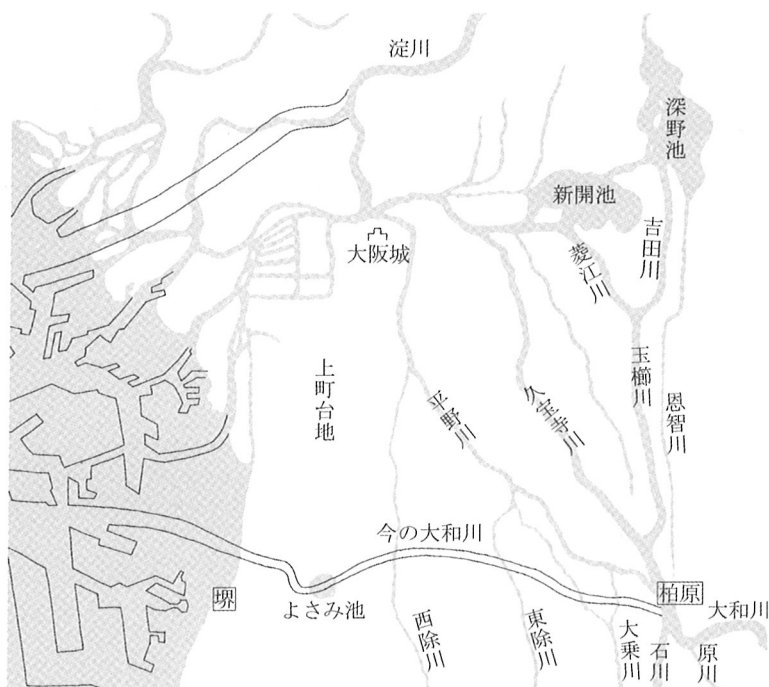
貞享4年（1687）にも、つけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、つけかえはできないという答えが幕府からかえってきたようです。それから、つけかえを願う文章が出されることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいというお願いに変わります。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

ところが幕府が急につけかえることを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入ってくる方法があることがわかったからです。つけかえ工事で幕府が使ったお金は、もとの川に田畑（新田）をつくるためにはらわれたお金で、ほとんどもどってきました。そのうえ新しくできた田畑からは、年貢（税金）が入ってくるようになりました。

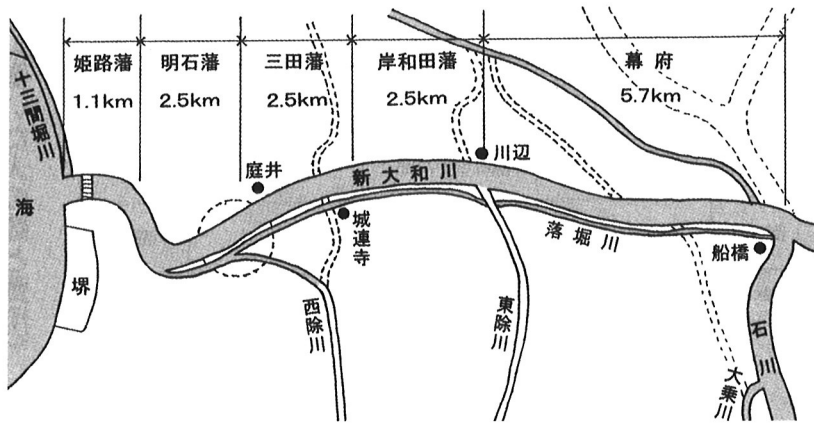
大和川のつけかえ工事

工事は宝永元年（1704）の2月にはじまり、10月に新しい大和川が完成しました。今から300年以上前、ブルドーザーなどない時代に、人間の力だけで工事をおこない、わずか8か月で大工事が終わったのです。あんなに大きな川をどうして8か月でつくることができたのでしょうか。

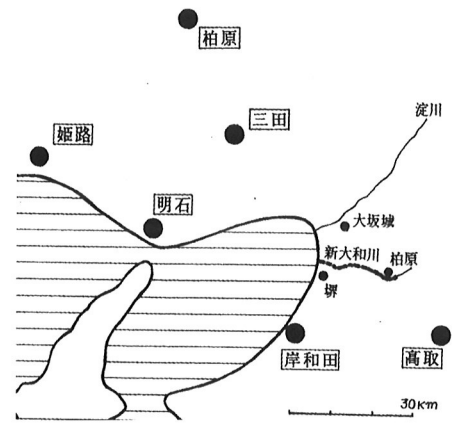
工事は毎日1万人ほどの人がはたらき、およそ7万両（今のお金で140億円ほど）の費用がかかったようです。そのころの人たちにとっては、大工事でした。



つけかえ前の大和川



てつだ だいみょう ぶんたん
お手伝いの大名の分担



ほん
お手伝いの大名の藩があった場所
(『ジュニア版 甚兵衛と大和川』より)

なぜ8か月で工事が終わったのか

①工事の準備をしっかりとっていた

どのように工事を進めれば早くできるか、よく考えてから工事をはじめています。川底をできるだけ掘らず、どうしても掘らなければならないところの土で新しい川の堤防をつくり、掘る土の量と堤防に必要な土の量がほとんど同じになるようにムダがないようにしています。

②大名のお手伝い

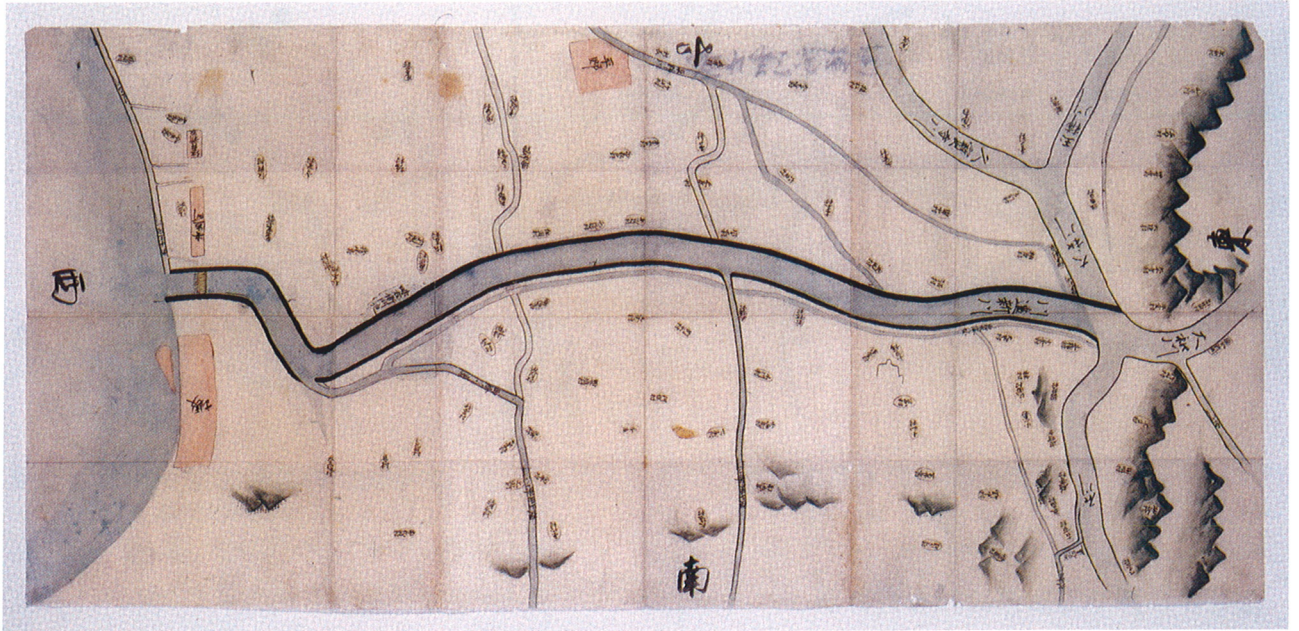
つけかえ工事の上流半分は幕府（国）が工事をしていますが、下流は大名たちに工事をさせています。最初、姫路藩（兵庫県）が工事に入りましたが、大名が死んでしまったためにとりやめになりました。そのあと、岸和田藩（大阪府）、三田藩（兵庫県）、明石藩（兵庫県）が分担して工事を担当することになりました。さらに、つけかえ工事といっしょにおこなう周辺の工事を高取藩（奈良県）、柏原藩（兵庫県）がおこなうことになりました。これらの藩は、ほかの藩に負けたくないと思い、また早く終わらせれば必要なお金も少なくなると考えて競争して工事にかかりました。だから工事が早く進んだのです。どの藩も大和川とはなんの関係もありますが、幕府の命令をことわることはできなかつたのです。必要なお金は自分たちで負担しなければならず、それぞれの藩にとっては、とてもめいわくなことでした。

③毎日1万人の人がはたらいた

毎日、1万人もの人たちがはたらき、その人たちのしごとや生活をみるのができたのは、大坂（大阪）が、とても発展していたからでしょう。

つけかえ後の大和川

つけかえ後、もとの川は田や畑となりました。これを新田といいます。新田では、わたがたくさん作られ、このわたから作られた河内木綿は品質がよく、高いねだんで売れました。こうして、もとの川の近くでは洪水の心配がなくなりましたが、こんどは新しい大和川の近くで洪水がおこるようになりました。



川違新川図（中家文書）

かわたがえしんかわず
2枚の「川違新川図」（中家文書）

つかえ後の大和川を描いた絵図「川違新川図」が2枚あります。上の絵図には大和川にか
えが えず かわたがえしんかわず えず
 かる紀州街道の大和橋が書き込まれています。下の絵図には大和橋が描かれていませんが、道
きしゅうかいどう やまとぼし
 路が赤線で書きこまれています。

この絵図から、南から流れてくる水を排水するために、新大和川の南堤防に沿って「悪水落
はいすい ていぼう あくすいおと
 シ堀（落堀川）」が掘られたことがわかります。また、大和川つけかえといっしょに西除川や大
ぼり おちぼりがわ にしよけかわ だい
 乗川もつけかえられたことがわかります。さらに多くの道が、新大和川によって通れなくなっ
じょうがわ
 たことなどもわかります。工事の内容がわかるたいせつな絵図です。